

令和元年 第2回 上野原市都市計画審議会の記録

1. 都市計画審議会の概要

日時：令和2年1月31日（金）午後2時00分～4時25分

会場：上野原市役所 2階 庁議室

□次 第

1. はじめのことば
2. 会長あいさつ
3. 建設課長あいさつ
4. 議 事
 - 1) 上野原市立地適正化計画について
5. その他
 - 1) 年度内審議会スケジュールについて
6. おわりのことば

□配布資料

1. 次 第
2. 立地適正化計画（素案）
3. 市街地の現状とコンパクト化の必要性
4. 上野原市立地適正化計画策定スケジュール

□出席者（○は出席）

○識見を有する者（1号）

・ "

○ "

・ "

○ "

○ "

○ "

○ "

○市議会議員（2号）

○ "

○ "

・山梨県職員（3号）

○ "

○市民代表（3号）

○ "

◆事務局

○建設課

○建設課

○建設課

○建設課

課長

都市計画担当リーダー

都市計画担当

都市計画担当

飯島 勤

大山 勲

武藤 慎一

金子 郁

中田 無双

清水 範男

佐藤 満

堂本 隆司

川島 秀夫

小俣 修

東山 洋昭

平山 照仁

塩入 栄

鈴木 誠一

中込 一男

関戸 一光

中村 慎

井上 将寿

加藤 直樹

* 敬称略、順不同

2. 発言要旨

(事務局)

- ・本日はお忙しい中、ご出席を頂き、お礼申し上げます。
- ・ただ今より、令和元年度第2回上野原市都市計画審議会をはじめさせて頂く。
- ・それでは、お手元の次第に従い、進行させて頂くので、よろしくお願ひしたい。

1. はじめのことば

(事務局)

- ・はじめのことばを会長職務代理にお願いしているが、本日、大山会長職務代理が欠席のため、省略させて頂く。

2. 会長あいさつ

(飯島会長)

- ・1月もあっという間で、今日が最後である。
- ・お忙しいところをお集まり頂き、お礼申し上げます。
- ・本日は、立地適正化計画の素案の最終確認になるので、慎重な審議をお願いしたいと思う。

3. 建設課長あいさつ

(事務局 建設課長)

- ・皆様、新年明けましておめでとうございます。
- ・いまご挨拶にあったように、既に1月も本日で終わりになるが、本年もよろしくお願ひしたい。
- ・改めて、本日はお寒いところを、ご多忙にもかかわらず、令和元年度第2回上野原市都市計画審議会に出席頂き、お礼申し上げます。
- ・皆様方には、日頃より上野原市発展のため、市政運営にご支援とご協力を賜り、重ねて感謝申し上げます。
- ・この後、事務局より、立地適正化計画素案について説明をさせて頂く。
- ・この立地適正化計画は、人口減少等による市街地の人口密度の低下や高齢化などが想定される20年後の本市を展望するものである。
- ・今後、人口が減少する中、いかに利便性を保ちながら、住み良いまちづくりを行っていくかが、大きな課題となっている。
- ・そのような課題に対応できるよう、コンパクトシティ・プラス・ネットワークを強化し、人口減少による都市機能の衰退を待つだけではなく、どうしたら都市機能を保ちながら、より住み良いまちを持続していくか、ソフト面、ハード面での取り組みを位置づける計画となっている。
- ・推計等によると、20年後には市内の人口は現在の約半分になることが予想されている。
- ・インフラの整備や維持が市内全域に渡り対応できるかといった不安が多々あり、行財政の圧迫等により、市政の運営もままならなくなることが危惧されている状況がある。
- ・全国の地方自治体で同様な現象が見込まれる中、地方分権により国からの補助金等も、益々不安定になり、市が市民の生活を守ることができなくなる時代が到来することが、心配されている。
- ・立地適正化計画の推進においても、できる限りの実行が必要であるとともに、今後必要なことは何か、改めて考えていく必要がある。
- ・本計画では、効果が期待でき、実行性のある事業を推進することが、一番ではあ

るが、今後、5年ごとに必要な事業の見直しができることとなっている。

- ・本日以降、住民説明会の開催やパブリックコメントを実施した上で、必要に応じて立地適正化計画策定懇話会で再検討する中で、最終的には都市計画審議会委員の皆様方に、3月にもう一度、ご意見を伺うこととなっているので、よろしくお願い申し上げます。
- ・結びに、これからの都市計画行政の発展のためにもご協力を賜りますようお願いを申し上げ、簡単ではあるがあいさつとさせていただきます。

(事務局)

- ・議事に入る前に、2点ほどお伝えさせていただきます。
- ・本日に会議に、立地適正化計画策定業務を受託している株式会社ブレイズも同席させて頂いているので、ご了承願いたい。
- ・2点目は、本日使用する資料の確認になる。

●配布資料の確認を行った。(事務局)

3. 議 事

(事務局)

- ・これより議事に入りたいと思う。
- ・上野原市都市計画審議会条例第5条により、議長を会長にお願いする。

1) 上野原市立地適正化計画について

(会長)

- ・それでは議事に入らせて頂く。
- ・本日の議案は1つで、上野原市立地適正化計画素案の確認である。
- ・それでは、事務局から説明をお願いしたい。

●「上野原市立地適正化計画」の概要について説明を行った。(事務局)

(会長)

- ・非常に厚い資料なので、本当はページを分けて意見を伺えばいいが、これまでも話し合ってきた内容であるので、全体を通して自由に意見を言って頂きたいと思う。
- ・どこでもいいので、気が付いた事を、どんどん言って頂ければと思う。

(委員)

- ・「コンパクトシティ」や「誘導」という言葉は、マイナス方向に受けとられる可能性がある。
- ・「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」ということで、中心に拠点があるということは、住民に説明すればわかると思う。
- ・パブリックコメントに出しても、なかなか反応する住民は少ない。
- ・そういった部分に関して、少しわかりやすく説明ができるといいと感じた。
- ・もう一点、20年後の人口は、時代をさかのぼると、昭和何年頃のイメージになるのか。
- ・そんなデータが何かあるかと、楽しみにして今日来た。

(事務局)

- ・本日は用意していない。
- ・そういったデータを、人口ビジョンで見たことがある。

(委員)

- ・時代をさかのぼってもらくと、20年後のイメージがつかれるのではないかと思った。

(会長)

- ・国の人口で言うと、現在のような1億2千万人という状況ははじめてである。
- ・こんなに人口が増えたのは、ここ数十年のことである。
- ・終戦時には7千万人程度であった。
- ・明治・大正時代は、現在の半分である。

(委員)

- ・昭和30年から40年頃のイメージではないかと思う。

(会長)

- ・その頃から、人口が爆発的に増えてきた。

(委員)

- ・その頃の旧町くらいのイメージではないか。

(委員)

- ・旧町部分がスカスカ状態になるということだと思う。

(事務局)

- ・先ほどお渡しした参考資料に書いてあるが、全国的な状況を考えると、2050年には、「1970年頃の人口と同程度になると予測されている。」ということである。
- ・「6割の地域で人口が半分以下になり、そのうち全体の2割にあたる地域では人が住まなくなることが見込まれている。」と考えられている

(委員)

- ・上野原は、既に何となくコンパクトシティ化していると思う。
- ・ネットワークという部分では、9地区あるが、それなりのネットワークがある。
- ・そういう点では、モデルになるのではないかと感じた。
- ・地域包括ケアも、昔は中学校区でやるという話であったが、市内の中学校が減ってしまったため、昔の小学校の区域でやっていかなければならないのではないかと考えている。
- ・中心部以外のまちづくりは、これとは別の論理でやっていく形だと思う。

(会長)

- ・20年後の推計人口は、現在の半分以下と相当小さくなる。
- ・時代をさかのぼって、何十年前と比較しても、当時は戦後の活力がある時代である。
- ・今度は、そういう時代とは違うと思う。
- ・非常に不安要因の多い時代に突入して、人口が少なくなる。

- ・そういう所は考えていかなければならない。

(委員)

- ・「コンパクトシティ」は非常にいい言葉であるが、「誘導」と言うと「私たちはここには住めなくて、まとまらなければいけないのか」というイメージの捉え方を、一般の住民はしてしまう。
- ・丁寧に説明していった方がいいと思う。

(会長)

- ・住民説明会については、資料が用意されているようである。
- ・わかりやすく質問形式で簡単に説明できるように工夫しているようである。
- ・説明は何とかなると思う。
- ・ご意見のように、この立地適正化計画は、中心地に人口を集約してしまうのではないかと心配の声が出てくると思う。
- ・そこをどう説明するかだと思う。
- ・しかし、そういう心配を完全に拭うことはできない。
- ・本音の部分では、そういう部分がどこかにあるので、完全には否定できないと思う。
- ・対応については、事務局にお任せしたい。

(委員)

- ・居住誘導区域に居住を集約していく、都市機能誘導区域に都市機能を集約していくということで、非常に機能的なまちづくりをしていくということとはよくわかる。
- ・この立地適正化計画の計画対象区域から外れた地域である、例えば桐原や西原は、空洞化して人が住まなくてもいい地域になってしまうのかということがある。
- ・住民説明会の際に、そちらに住まれている方は、「取り残されてしまった」という気持ちを持つのではないと思う。
- ・計画対象区域以外をどうしていくというプランはあるのか。
- ・あるのであれば、住民説明会でしっかりと説明した方が、住民の理解が得られるのではないと思う。

(会長)

- ・都市計画マスタープランなど、他の計画の中では、当然触れている。
- ・立地適正化計画は、どうしても中心部を中心に記述している部分がある。
- ・ただこの計画の中でも、例えば45ページに「居住誘導区域に含まないエリアへの対応」、「山間集落地域における持続可能な生活圏の形成」という内容が記述されている。
- ・計画対象区域以外の地域についても、色々配慮して記述してもらっている。

(事務局)

- ・立地適正化計画は都市計画区域内を対象とした計画であるので、そちらを主として説明をさせて頂くことになる。
- ・それ以外の地域にお住まいの皆様に対して「同じような取り組みができないのか」という部分については、いま会長が申し上げたように、45ページ、また23ページにも記述しているが、「安定的に持続する「小さな拠点」の構築に取り組むことができる。
- ・これは、国土交通省で行っている事業で、「小さな拠点」は、例えば西原の中に拠

点をつくっていく。

- ・この「小さな拠点」の取り組みは、西原地区では実際に実行している。
- ・この事業で、高齢者の介護予防のための運動を行っている。
- ・10人乗りの車で各集落をまわって、最終的にびりゅう館に皆さんに来て頂いて、そこで機能強化訓練を行ったり、高齢者の方が集まって食事をとったりしている。
- ・「小さな拠点」の事業を使った中で、介護予防の取り組みが行われている。
- ・どのように取り組んでいくかは、地元の方と行政が話をした中で考えていかなければならないものである。
- ・立地適正化計画の計画対象区域以外のところでは、こういった事業もあるので、計画に記述している。
- ・この他にも、中山間地域の農業関係の制度などもあると思う。
- ・ひとつの例として「小さな拠点」について書かせてもらっている。
- ・立地適正化計画は都市計画区域を対象とした計画ではあるが、それ以外の部分については、違った計画で取り組んでいく考えである。
- ・そういったことは、住民説明会で説明させて頂ければと思っている。

(会長)

- ・その部分については、よろしくお願ひしたい。
- ・この計画について話し合いをはじめたときに、そういう意見が出た。
- ・同じような考えを、皆さん持っていると思う。
- ・ただどこかに集中するのではなく、ネットワーク形成の一環として、効率化した地区を利用して頂きたいと考えている。

(委員)

- ・タベ資料を読んでみて、基本的にはよくできていると思った。
- ・例えば廃校の活用の問題も、計画の中に書かれている。
- ・確かに、中心部以外にも目配りが必要だと思った。
- ・13ページの「人口に関する課題」に、「人口減少に歯止めをかけるためには、子育て世代の転出の抑制が必要」とある。
- ・これが非常に重要だと思う。
- ・そのためには、働く場が非常に重要だと思う。
- ・職住接近だと、特に女性はそこに定住しやすい。
- ・私は働いているところは吉祥寺にいて、上野原は1か月に1回くらいであった。
- ・しかし現在は上野原が主で、吉祥寺が従になっている。
- ・吉祥寺が人気があるのは、色々な理由があると思うが、ひとつは短時間で行ける働く場があるためである。職住接近である。
- ・女性も子育てをしながら働くことができる。
- ・吉祥寺は若い人の人口が増えていて、人口全体が増えている。
- ・やはり働く場が必要だと思った。
- ・それから質問だが、41ページの図で上野原の中心部が黄色で塗られているが、土砂災害警戒区域も黄色で塗られているが、どちらの黄色かわからない。
- ・中心部が土砂災害警戒区域なのであれば、大変なことだと思う。

(事務局)

- ・41ページの図については、土砂災害警戒区域と用途地域の色が被ってしまっている。
- ・わかりやすいように、図を修正させて頂く。

(委員)

- ・ 84 ページに「本市の住みよさを感じる市民の満足度」という内容があり、53.2%という数字になっている。
- ・ その次に「子育て環境や子育て支援に関する満足度」ということで、7.7%、7.5%という数字が掲載されている。
- ・ この数字でいくと、13人に1人である。
- ・ この数字は他の市町村に比べてどうなのか。そういったデータはあるのか。

(事務局)

- ・ 他の市町村のデータは把握していない。
- ・ 高いのか、低いのかということは、子育ての担当部局と詳細な話をしていないので、分かりかねる部分がある。
- ・ ただ、同じようなアンケート調査を行って、数値がどのように伸びるか確認していきたいと考えている。
- ・ 各市町村によって調査の仕方が違うので、何とも言えない部分である。
- ・ 子育ての担当部局に確認し、今後のデータとして把握していきたい。

(委員)

- ・ 市の将来を考えた時に、子育て世代のデータが一番重要だと思う。
- ・ その人たちは、なかなか意見を出す機会がない。
- ・ 歳を取ると、私たちもそうだが、こういう場に来てずうずうしく言う。
- ・ ところが、若い世代は、なかなかそういうことができない。
- ・ 私は、高齢者の施策は多少削ってでも、子育て支援の方をやるべきだというのが持論である。

(事務局)

- ・ あまり細かくは書いていないが、例えば70ページの「新たな人の流れの創出」の中で、企業の誘致や雇用の創出を図ること、また企業の立地促進事業や起業・創業への支援を行うといったことを記述している。
- ・ これは、子育てに限ったものではないが計画に記述している。
- ・ また、72ページの「大学との連携による若者の定住促進」の中でも、「企業、行政、大学の3者が連携を図る中で、情報提供や研修会等の実施により学生の市内企業への就職を促進します。」という内容を記述している。
- ・ 70ページの「新たな人の流れの創出」の中で、「総合福祉センターふじみ等を核とした医療・介護・福祉関連企業の立地誘導と雇用の創出を図るなど、企業立地促進事業や起業・創業への支援、事業環境の整備に積極的に取り組みます。」「また、若年層人口の流入促進に向けた、新たな働き方のスタイルに対応した雇用創出を検討します。」という内容を記述している。
- ・ あまり細かくは書いていないが、雇用についても考えている。

(委員)

- ・ 少し細かいことであるが、帝京科学大学の学生が市内に住まないということがある。
- ・ 不動産屋の話だと、アルバイト先がないからだという事である。
- ・ 市に問題意識があれば、計画には書かなくてもいいと思う。

(事務局)

- ・大学と市内企業と行政で、話し合いができる機会を設けることを考えている。
- ・今後、そういったことを活かしていければと思っている。

(会長)

- ・70 ページ等に記述されている内容で、よろしいか。

(委員)

- ・対応については、事務局にお任せする。

(会長)

- ・そういう問題意識が強く必要だというご意見は、もっともだと思う。
- ・抜本的にダイナミックなことをやらないと、少しくらいのことでは対応できないと思う。
- ・駅前に店舗ができて60名程度の雇用が実現している。しかし、それだけではとてもだめである。
- ・人を引き付けるような産業を何かつくと、だめだと思う。
- ・継続して考えていく問題だと思う。

(委員)

- ・働く環境、雇用、また我々高齢者に対する支援といったことが計画に謳われている。
- ・子育てをしている環境にある若い夫婦、家庭の問題がある。
- ・上野原市の青年会議所と中学生が行った、「上野原市をどうみているか」という意見交換のDVDを頂いた。
- ・中学生は、「自然が豊かで、素晴らしい」、「上野原市をもっと外へアピールすべきだ」、「アピールが足りない」という意見であった。
- ・それをするのが、近い将来のあなたたちである。意見を言うのは誰でもできる。
- ・感動・感激したら、具体的に行動に移さないと感動ではない。
- ・自然豊かでいいのだが、不足している部分の方が多い。
- ・冬休みや春休み、夏休みになると、ディズニーランドに行ったり、土日でも親と一緒に八王子に行ったり、町田に行ったりする。
- ・高尾も20分あれば行くことができる。
- ・大きなスーパーにすぐ行くことができる。
- ・そのような商業施設が上野原に欲しいといっても、こんな小さなまちでそれは無理である。
- ・子どもたちが安心して遊べる公園がない。
- ・ファミレスもなければ、道の駅、まちの駅もない。
- ・普段、若い家庭の人たちが、どこかに行くといってもまちの中には何もない。
- ・そうすると、外に出てしまう。
- ・そういう環境で育った子どもは、大きくなった時にまちに定着しない。
- ・子育て環境に関して、計画に謳ってあることは非常にいいが、アミューズメント、公園、日常の楽しみ、子どもが安心して遊ぶことができる場所、それを見守る地域など、そういったものが欠けているまちは消滅すると思う。
- ・他の自治体で頑張っているところは、そういった部分に関して、ソフトの面で非常に力を入れている。
- ・そういった部分が計画に謳われていない。どこかに盛り込めないかと思う。

- ・公園の整備は、ずいぶん昔から話が出ている。
- ・子どものために、若い家庭のために、何か力を入れられる施策を計画に盛り込むことができないかと感じた。

(事務局)

- ・70 ページの「中心市街地の活力の向上によるまちなか居住の促進」の中で、「ファミリー対象の外出産業や若者・子育て世代をターゲットにした店舗の誘致に努めるなど、既存商店街と共存し、地域コミュニティ活性化に寄与する新たな賑わいの核の創出を検討します。」を記述している。
- ・またその下に、「まちなか居住を促進する上では、生活利便性を高める商業機能の充実と併せて、人が集うコミュニティ機能が求められます。そのため、多様な機能をマッチングした滞留拠点となる「まちの駅」等の交流拠点整備を検討し、市域内外の交流の創出に向けたまちなか再生に努めます。」を記述している。
- ・子育て世代等をターゲットにした外出産業といったもので、賑わいを創り出しコミュニティが活性化できればということを書かせてもらっている。
- ・公園については、72 ページの「子育て支援に関する都市機能の充実」の中で、「就労世代（生産年齢人口）の定住促進によりバランスのとれた年齢構成の居住を促進することも重要であり、子育て世代が働きながら子育てしやすいまちを目指し、就学児の遊び場や身近な公園の整備など、各種組織と連携・調整を図り、子育て支援策の推進や子育てしやすい環境整備に取り組みます。」を記述している。
- ・ここで、公園についても言及させて頂いている。
- ・子どもの遊び場が少ないという意見がある中で、こういった内容もひとつの目標として掲げさせてもらっている。

(会長)

- ・計画の中では、ある程度ふれている。
- ・意見を参考にして、事務局で検討してもらえればと思う。
- ・この計画書の中の話ではないが、若者が利便性や消費的な刺激を求めて都会に関心が向くのは、ある程度しょうがない面もあると思う。
- ・私も若い頃には、「上野原なんて出たい」と思った。
- ・あまりこの土地にへばりつくような若者でも困る。
- ・しかし、そういったことを乗り越えて、郷土を愛していく気持ちをつくっていくことが必要である。
- ・人づくりだと思う。
- ・変な刺激に騙されないで、田舎でも愛してまちづくりをしていくという気概を持った若者を育てていく必要がある。
- ・立地適正化計画の策定懇話会には、学生が2人参加している。
- ・しかし、言っては悪いが、ほとんど出席しない。
- ・授業等があるので、しょうがない部分はある。
- ・若者がもっと真剣にならないと、自分たちで何とかしていくという気持ちがないと、駄目だと思う。
- ・小さい時から人づくりをしていくことが背景にないと、計画書をいくらつくってもうまくいかないのではないかと思う。

(委員)

- ・上野原市では、来年度に向けて、4 ページに記載されている「上野原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の2期計画の策定に取り組んでいる。

- ・その中に謳われている施策がたくさんある。このまちをどうしていくべきか、定住人口を増やすためにはどうしたらいいかといったことがある。
- ・その計画の下に、都市計画マスタープランがあって、その下に立地適正化計画がある。
- ・その下に連携して取り組んでいく計画が列記されている。
- ・立地適正化計画を所管しているのは、建設課都市計画担当である。
- ・この計画をまとめあげるにあたっては、庁内に建設課以外に関係する課がたくさんある。
- ・政策秘書課、財政経営課、市民課、生活環境課、税務課、産業振興課、福祉課、子育て保健課、長寿介護課、建設課、教育委員会が関係する課としてある。
- ・これらの課と協議して決まったものが、この都市計画審議会に示されているということが、基本だと思う。
- ・事務局でも、自分の課で所管している内容については、深く話ができる。しかし、他の課で所管している内容については、先ほど「その内容については事務局では把握できていない部分がある」という回答があったが、その通りだと思う。
- ・しかし、市がこの計画をつくるということは大きな責任があるし、私たち3人の議員も大きな責任を持っていると思っている。
- ・4ページの「関連計画」の中に、「地域公共交通網形成計画」は当然載ってこなければいけないのではないかな。
- ・パブリックコメントのホームページへの掲載も既にされているということであるが、この計画を掲載しているということか。

(事務局)

- ・そうである。

(委員)

- ・立地適正化計画は都市計画区域を対象とした計画で、上野原市の台地の上、駅前の一部、それからコモアしおつが主な対象である。
- ・そういう地区のためにつくっている計画で、桐原や西原、秋山、甲東など区域から外れた場所は、切り捨てなのかと受け取られる可能性がある。
- ・「そうではない」ということを回答するためのQ&Aをしっかりとつくっておく必要がある。
- ・2月5日、6日に住民説明会を開催するということだが、必ず質問が出ると思う。
- ・いくつか質問がある。
- ・公共交通の関係で、色々な地図が掲載されている、
- ・16ページの地図について、秋山の無生野までバスが行っているのではないかな。
- ・無生野の停留所からの徒歩圏内が地図に入っていないのではないかな。

(事務局)

- ・16ページは、都市計画区域の図であるので、秋山は入っていない。

(委員)

- ・勘違いしていた。
- ・72ページに「交流人口の拡大、居住誘導に向けた自治会活動や市民活動への支援の充実」という項目がある。
- ・これは、政策秘書課が担当になる内容だと思う。
- ・現在、上野原市では、市民活動支援事業といったものに予算を付けて実施してい

- る。
- ・この内容を続けていくということは、担当課と議論をしているのか。
 - ・予算を組んで、もっともっと地域コミュニティを盛り上げていくとか、色々なことをやっていくことに関して、来年度の予算はわからないが、どうなっているのか聞いておきたい。
 - ・78 ページに「税制上の特例措置」の記述がある。
 - ・先ほど説明があったが、都市機能誘導区域の外から内への事業用資産の買換特例といった内容が記載されている。
 - ・「80%課税繰り延べ」と書かれている。次の方に売買や譲渡をした場合には、その時の税金はどういう形になるのか、もう一度確認したい。
 - ・その下の「敷地の集約化など用地確保の推進」という内容があるが、税率がこれだけ下がってくると魅力があると思う。
 - ・例えば②には、譲渡所得の税金が15%から10%になると書かれている。これは、かなりの魅力だと思う。
 - ・立地適正化計画を決定すれば、そういうことをやってもらうことになる。
 - ・ここには「所得税」と書いてあるが、もう少し正確に言えば「譲渡所得税」だと思う。一般的な所得税とは違うということを、しっかりと謳っておいた方がいいのではないか。
 - ・84 ページの「子育て環境や子育て支援に関する満足度」は、平成25年の結果になっている。
 - ・この後に、巖こども園や上野原こども園が竣工している。
 - ・こども園は、いままでの保育園とは全く違うものなので、ここでアンケートをとってもらおうと、数字が上向いてくると思う。
 - ・こういうタイミングでもっとアピールしてもらった方が、こういう資料の中では生きてくるのではないか。
 - ・そのために、福祉保健部の担当課と迅速に協議をしてもらえれば、そういうことも動いてくると思う。
 - ・あと、若年層の雇用の確保により、若い人が外に出ないで上野原で定住してもらうことも重要である。
 - ・建設課都市計画担当が、この計画をつくり上げなければならないことはわかっているが、各担当部署との連携をしっかりとしていかないと、把握しきれないし、まとまりきらないと思う。
 - ・そういう部分でも、私たち議員が協力しながら進めていければいいと思う。

(事務局)

- ・72 ページの「自治会活動や市民活動への支援充実」については、庁内検討会で関係部署のリーダー中心に集まった中で、このような素案をまとめ上げてきた。
- ・また、先月の課長会議でも、素案の内容について問題がないか、各部局で再確認して頂いている。
- ・住民活動については支援をしていくという主旨で、計画に記述しているので、今後、担当部局でこの施策を充実していくように取り組んでいくものと考えている。

(会長)

- ・さらに確認して頂き、前向きに進めてもらえればと思う。
- ・78 ページの「80%繰り延べ」の部分はどうか。

(事務局)

- ・所得税の分離課税というものになると思うが、「譲渡所得」という文言を付け加えて、わかりやすくしたいと思う。
- ・計算例などを示せば一番いいが、譲渡に対する所得ということがわかるようにできればと思う。
- ・国で示している資料もこの程度の内容で、私も調べてみたが、内容としては譲渡所得という記載があった。
- ・わかりやすいように記載したいと思う。

(会長)

- ・84 ページの「計画の効果を確認するための指標」は、アンケート調査を行ってこういう数字が出ている。
- ・今後、この数字が高まるように、色々努力をしていくということだと思う。

(事務局)

- ・計画を5年ごとに見直すので、今後アンケート調査を行うにあたっては、同じ指標で、同じ調査の仕方を実施できればと考えている。
- ・その中で、状況がどのように変わったか把握できればと思う。
- ・見直しの際に、巖こども園や上野原こども園ができたので、こういう数字になったということがわかるように記述できればと思う。

(委員)

- ・雇用は生活のベースになるものなので、私も重要だと思う。
- ・「上野原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」というプランがあって、それをもとにこの立地適正化計画が策定されているということも理解できた。
- ・仕事が充実すれば、当然、若い人が来て、子育て支援が重要になってくる。
- ・62 ページを見ると、子育て支援施設が「×」になっているので、これは今後立地させるということ、謳ってもらっている。
- ・90 ページの公共交通の内容について、10 月から循環バスが運行されているということだが、どのくらいの利用者数になっているのか。
- ・集約されるエリア以外の場所はどうかという時に、循環バスでネットワークをつなぐ。ネットワークをつなぐには、道路もあるが公共交通もあると思う。
- ・循環バスとその外に伸びていく公共交通との連携について、「ちゃんと乗り換えられる時刻表になっている」といった配慮されているのか。

(会長)

- ・循環バスについて、現状の利用度合いは調査中だと思う。

(事務局)

- ・循環バスについては、生活環境課で所管している。
- ・循環バスの調査をどのような形でやっているのかは、現在は把握できていない。
- ・所管課でも路線バスの利用者数を、把握できていない。
- ・今回の循環バスについては、立地適正化計画の中で「利用状況の調査と路線の見直し強化」の位置付けを行っている。
- ・枝線のネットワークについては、「デマンドタクシーの機能強化」の中で、「路線バスの乗り継ぎのための待合環境の整備」を位置付けている。
- ・現状では、ネットワークを構築しきれていない。

- ・循環バスと枝線としてその外に伸びる部分について、ネットワークが構築されていないので、その部分のネットワークの構築を行うために、計画に位置付けを行っている。
- ・待合施設をつくることによって、路線バスとデマンドタクシーをつなぎ合わせることができる。
- ・そこに時刻表をおいてバスが滞留する、タクシーが滞留する場所ができればいいと考えている。
- ・地域公共交通網形成計画の中でも、目標として謳われている。
- ・立地適正化計画の重要な取り組み施策のひとつとして、重んじていきたいと考えている。

(会長)

- ・子育て支援施設については、中心部にはできているが、駅前とコモアしおつにはない。
- ・コンパクトだけではなく、周辺のこととも関連してくるが、ひとつの方策として、「福祉の充実したまち」といった形で、児童の施設や老人の施設を充実させるといふことがある。
- ・東京都などではもうつくれないので、東京都の人たちを受け入れるような老人施設の整備といったことが、上野原市でできないかと思う。
- ・刑務所は山のあるところにはつくらないと思うが、可能であれば刑務所を誘致するというのも考えられる。
- ・そういう大きなことを考えないと、なかなかうまくいかないのではないかと思う。

(委員)

- ・この立地適正化計画は、以前、私が一般質問でとりあげたことがある。
- ・その時の資料とはかなり変わっているので、驚いている。
- ・資料の内容を読むと、大変理想的なまちで、これが実現できれば、現在の上野原市よりもさらに上等なサービスを住民に提供できるのではないかと思う。
- ・20年後をみると、現在の半分の人口になるということである。
- ・その人口で、その時に上野原市が市民病院やいくつかの開業医がやっていけるのか。
- ・市として行政を動かしていけるのか。
- ・消防本部は維持できるのか。
- ・その時にどうするのかは、これから考えていくことだと思う。
- ・他の市町村と一緒にしなければいけなくなった時に、どうするのか。
- ・上野原市は色々な計画に取り組んでいる。
- ・しかし、私に言わせるとコンサルタントを儲けさせるだけのことである。
- ・本当に実現できるのか、正直疑問である。
- ・20年後、上野原市が単独でやっていけない時に、大きなお金がかかっている色々な計画がどうなっていくのか。
- ・おそらく、1市だけではやっていけない時代が、近いうちに来ると思う。
- ・そういった時に、上野原市が他の市町村と一緒にやっていかなければならない。
- ・そういったことは想定しているのか。

(事務局)

- ・立地適正化計画は、今後、人口が半分に減った場合に市としてやっていけるのか

ということが、一番の目的になっている。

- ・立地適正化計画は、コンパクトシティ・プラス・ネットワークを目的としている。居住を集約しないことには、人口が減った時に市が財政破綻してしまうので、集約して都市機能を維持するというのも一つの目的である。
- ・それでもだめな場合には、他の市町村と合併するといったことも出てくるかもしれないが、その時には、例えばであるが、大月と上野原と都留といった3市で広域的な計画を策定することになる。
- ・計画を策定しなければ、そこに都市機能を誘導する際に、国は補助金を出さないとといった話になってきてしまう。
- ・中心市街地に病院や市役所、福祉施設がないことには、例えば、西原、桐原、秋山の住民の方にとっても、不便になってしまう。
- ・上野原市に市立病院がなくなってしまうたら、八王子の東海大病院などに行くといった話になってきてしまう。
- ・上野原市立病院も、人口が減ることによってお客さんが減れば、なくなってしまう。
- ・もちろん、スーパーも同じことである。人口が減って、利用者がいなくなれば無くなってしまう。
- ・そうすると、皆さん都内に買い物に行ったり、都内の病院に行ったりということが起きてしまう。
- ・そういったことがないように、人口を集約することによって、都市機能が今後も持続していけるようにすることが、一番の目的の計画である。
- ・先ほど課長からも話があったが、国では、地方分権により「市町村が頑張ってください」と言っている。
- ・こういった計画をたてることによって、国が補助金を出すので、市町村に頑張ってもらいたいと言われている。
- ・もちろん、合併した際には広域でやっていかなければならない。
- ・また同じような計画を策定し、今後を見据えた行政を進めなさいという話になると思う。
- ・いずれにしても20年後は、そういう状況になるのではないかという予測である。

(委員)

- ・現在、移住・定住ということで、担当課は一生懸命動いている。
- ・この計画を4月1日から動かしていきたいということであるが、例えば西原に移住されたら困るのではないか。

(事務局)

- ・西原や桐原については、農業振興も絡んでくる。
- ・そういった地域に住みたいという方もいる。
- ・人口を集約するだけでなく、そういったところにも人が点在してくれることによって、都市機能誘導区域にも人が来てくれることになる。
- ・立地適正化計画を策定すると、居住誘導区域は建ぺい率や容積率を緩和することが市の条例等で規定することによりできる。
- ・また、先ほど説明した、税の優遇措置があったり、補助金の措置があったりする。
- ・空き家に関しても、中心市街地の空き家を改修する場合などには補助がもらえるといったことがある。
- ・公共用地を利用して、コミュニティの活性化を図るための施設をつくる場合の補助もある。

- ・西原や桐原に住みたいという方は、市街地の利便性を求めている訳ではなく、農業等を目的に来ている方が多い。
- ・立地適正化計画は農業を衰退させるための計画ではないということも、一言申し上げなければならない。
- ・住民説明会では、そういったことも話をしていきたいと考えている。

(会長)

- ・およそ20年後に人口が激減した時の上野原市の在り方をしっかりと考えていくことは、もちろん重要である。
- ・政策秘書課などが中心になって取りまとめて、市の政策として本気でやっていけないといけないと思う。
- ・こういう計画をつくるにあたって、私もいくつか参加しているが、仕方がない部分がある。
- ・国からは、計画を策定し、事業に位置づけることにより補助金をもらうことができる。
- ・国が財布を引き締めていくために、こういうことを地方にも求めている。
- ・事務局もかなりの労力がかかっており、結構、無駄だと思う。
- ・行政改革という話であるが、機構改革を中心にしていく必要がある。
- ・職員の給与を減らすとか、人を減らすという問題に行きがちであるが、そうではなく、不合理な機構を改革していくというところに行政改革がいかないといけない。
- ・そのためには、議員にリーダーシップをとってもらう必要がある。
- ・本音の話としては、計画は美辞麗句が並んでいる。
- ・20年後に、本当にどうするのかという本音の政策を考えていかないと、えらいことになってしまうのではないかという気がする。
- ・議員の皆さんなどがもっと声を上げて、やっていってもらいたい気がする。
- ・こういう会議は形式的になってきてしまう。本音のところはどうするのかということが重要である。
- ・将来はお金が足りない。今から基金などを準備していかなければならない。
- ・当然、災害もおきてくる。物凄い災害がおきてくる。土砂崩れや水害だけでなく、大地震が必ずおきる。
- ・大地震がおきたら原発はどうするのか。
- ・日本の国がどうなるのかという状況の中で、割と呑気な話だと思う。
- ・お金をだんだん減らしていこうとしているが、変なところには沢山使っている。
- ・例えば、日本は世界有数の軍事大国である。防衛費はどんどん増やしている。
- ・そういうアンバランスなことを平気でやっていて、国民の生活はひっ迫している。
- ・政治を変えていなければいけない。

(委員)

- ・軍事費は、中国と北朝鮮の問題である。
- ・対抗するためには、そうになってしまう。

(会長)

- ・国民や市民の問題意識が高まっていかないと、結局は変わらないと思う。
- ・そういう議論を喚起するムードを議員の皆さんにつくってもらいたい。

(委員)

- ・大きい事業を持ってこなければ駄目だという話があったが、私の所にリニアの飯場を上野原につくりたいという話があった。
- ・1,000坪から2,000坪という規模である。
- ・鶴島にそのくらいの空き地がある。平らな土地なので、ブルドーザーで少し造成すれば使うことができる。
- ・そこを紹介した。
- ・あるいは神奈川県企業庁の空き地を借りたらどうかという話をした。
- ・現地を見に来ると言っていたが、その後連絡がない。
- ・考えてみると、島田は風致地区であるので、開発は無理だと思う。
- ・風致地区を解除してもらわないと駄目である。

(事務局)

- ・例えば駅前に関しても、上野原市の将来の行く末を見た中で、駅の周辺整備を行うことを目的として、風致地区を外している。
- ・目的がしっかりと定まってくれば、風致地区から除外したり、違う場所に付け替えたりすることも可能だと思う。

(委員)

- ・JRが7年間借りたいという話である。
- ・4t半の車が入ることができればいいということである。

(会長)

- ・風致地区は風致地区で必要だと思う。

(委員)

- ・住んでいる人に言わせれば、「風致地区は解除してもらわないと、とてもやっつけられない」という話である。

(会長)

- ・その議論は、今はしないが、必要だということで、ある程度温存している。
- ・この都市計画審議会でも、十分議論してきた。
- ・風致地区を解除したから島田地区が開発されるという問題ではないと思う。

(委員)

- ・立地適正化計画は、都市計画区域が対象ということであるが、この都市計画区域以外の部分は、農村集落である。
- ・農村集落における農の振興に関しては、「上野原農業振興地域整備計画」という計画がある。
- ・農業と農村集落の振興について書かれている。
- ・その計画が4ページの「関連計画」の中に入らないかと思う。
- ・農村集落の振興も、どこかに書いておいてもらいたいという気持ちがある。
- ・もう一点、この計画の中で気になっていることがある。
- ・61ページの表で、都市機能誘導施設が不足しているものは、「×」が付いている。
- ・こういう施設は無いと書いてある。
- ・62ページの表も同様である。
- ・87ページを見ると、この都市機能誘導施設を今後20年以内に整備する予定がな

い。

- 例えば、上野原駅周辺の行政施設は「×」になっている。その下の社会福祉施設も「×」になっている。子育て支援施設も「×」になっている。この施設は無いと書いてある。
- しかし87ページを見ると、そういった社会福祉施設、子育て支援施設の整備といったことは、一切書いてない。

(会長)

- 先導的な取り組みの中に記載が無いという意見である。
- 先導的な取り組みには、優先してやることが書いてある。
- すべてを網羅できないということだと思ふ。
- やっていかないような印象をうけるという意見だと思ふ。

(事務局)

- 61ページ、62ページについては、施設が不足している部分は「×」と表示させてもらっている。
- この部分については、今後可能なものは充足していくことになる。
- ただし、ネットワークで充足が可能な部分については、ネットワークを利用して対応していくことになる。
- 87ページとの関係については、この部分は特につながりはない。
- 上野原市として、20年以内に取り組み内容として何が重要で、何をやっていかなければならないかと言われた時に、国道20号の改善・整備は、過去何十年に渡って、中心市街地の活性化という中で、話が進められてきている。
- 結局、ずっと整備ができないままとなっている。
- 国土交通省道路河川部署などと話す中で、用地等がどういかなければ、国道20号は整備ができて、現状は幅員が8mくらいしかないが、14mとか16mという幅員を確保し、歩道も整備できる方向で勉強会が進められてきた。
- まずは、国道20号を整備することによって、その波及効果により、周りへ枝線が伸びていく、市の活気を取り戻すような一つの材料になればいいと考えている。
- まずは今できることからだが、20年の間に他のことも出来ることは進めていかなければならない。
- 大きな主要な取り組みをいくつか設ける必要があった。
- ソフト事業だけではなく、整備事業も取り入れて、これまで課題となっているものは特に計画に盛り込んでいく必要がある。
- その中で国道20号の改善、都市計画道路の見直しを、立地適正化計画の策定を機に、どうにか進めていくことが必要ではないかということである。
- こういったことも重い腰をあげてやっていけたらと考え、計画の主要施策として取り入れている。
- 立地適正化計画は5年ごとに評価を行わなければいけないので、「どのくらいできたの」と言われた時に、「これだけやりました」というものが必要になってくる。
- もちろん、計画に位置付けられている事業を全て検討しながら、進めていかなければならないと思っている。
- 不足する施設について、可能なものは充足していかなければならないと思うが、人口が減少した中で、例えばコモアしおつに子育て支援施設が必要かといった場合に、実際には近隣の巖地区には近年、巖こども園が整備されている。
- コモアしおつの居住誘導区域の中にはないが、コモアしおつの住民を含め、利用できる施設として建築がされている状況である。

- ・そういったことを考えても、公共交通網等を利用すれば、充足できていると考えられる部分ではある。
- ・しかし、区域内にはないということで、「×」として示しているものである。

(委員)

- ・せっかく施設があるのだから、「△」くらいの表記でいいのではないか。

(委員)

- ・「×」だとイメージが悪い。
- ・「×」にした理由は何か。

(事務局)

- ・都市機能誘導区域の中にないので、「×」としている。

(委員)

- ・近隣に施設があるということで、「△」でいいと思う。

(会長)

- ・対応については、事務局にお任せしたいと思う。
- ・61 ページ、62 ページに書いてある都市機能誘導施設については、整備をやらないということではなく、不足しているので充足していかなければならないという気持ちを前提にしている。
- ・その方策としては文章で色々書いてあり、87 ページの表については、まずは何をやるのか目に見えた形示す様に、立地適正化計画策定の手引き等の中で言われているので記載しているものである。
- ・福祉施設を充実する取り組みをしないということではない。
- ・もう 1 点、農業振興計画に関する意見があった。
- ・整合性を図る必要があることを謳った方がよければ、追加してもらえればと思う。
- ・関係する計画というと、色々あると思うので、全部はあげられない。

(委員)

- ・景観計画も入れてもらいたい。

(会長)

- ・貴重な意見が多数出て、だいぶ計画が煮詰まったと思う。
- ・充実した会議になり、お礼申し上げます。
- ・以上で議事を終了する。

5. その他

(事務局)

- ・今後のスケジュールについて事務局より説明させて頂く。

1) 年度内審議会スケジュールについて

(事務局)

- ・先ほど皆さんにお示したスケジュールであるが、都市計画審議会については、大変申し訳ないがもう 1 回お集まりいただき、意見聴取をさせて頂く。
- ・日程としては、市議会の関係もあり、日程調整を行う中で、3 月 3 日頃を予定さ

せて頂きたいと思っている。

6. おわりのことば

(事務局)

- ・本日はお忙しい中をご出席頂き、お礼申し上げます。
- ・以上で、令和元年度第2回上野原市都市計画審議会を閉じさせて頂く。
- ・ご協力、お礼申し上げます。

(以上)